

2020年4月15日

九州電力株式会社

代表取締役社長 池辺和弘 様

お尋ね

一般社団法人グリーンコープ共同体
代表理事 熊野千恵美



前略、4月10日付の読売新聞と朝日新聞の報道で、「（貴社が）玄海原発で焼却炉から放出される放射性物質の算定データを誤り、焼却炉運用開始から約40年にわたって、国と周辺自治体に過少報告をしていたと発表した。周辺の環境や人体への影響はないと説明している。」との記事を見ました。

そこで、貴社のホームページで発表されている『玄海原子力発電所における気体廃棄物の放出量の誤りについて』他を拝見しました。

【誤りの内容】に、「……排気筒に繋がる全てのファンの風量を考慮すべきところ、一部のファンの風量を考慮していなかったため、放出量を誤って算定していました。」とありました。別紙では、「原子炉施設本体（1～4号機）」のフィルタからのものは正しく算定しているものの、「雑固体焼却炉建屋」と「廃棄物処理建屋」のフィルタからのもので、前者は4系統のうち2系統のファン風量を、後者は6系統のうち4系統のファン風量を算定していなかった、と説明されていると思いました。

一方、【地域の皆さま及び周辺環境への影響】に、「周辺公衆への影響につきましては、発電所からの総放出量（発電所合計値）により評価しており、今回のトリチウム放出量の誤りによるその評価への影響はない……。また、これまでの環境放射線モニタリングにおける、発電所周辺の試料の放射能分析により、発電所の運転に伴う放射性物質の放出による周辺環境への影響はない……。」とありました。

自然環境に対しての放射性物質の放出というものは、自然と人にとって大切な問題だと思います。

その気持ちから、幾つかのお尋ねをいたします。

- ① 誤りの内容についての理解は間違いないでしょうか。
- ② どうしてこのような誤りが起きたのですか。
- ③ 今回、どのような経緯でこの誤りが判明したのですか。逆から言えば、40年間分からなかったのはどうしてですか。
- ④ こうした誤りは、他にはないと言えるのでしょうか。
- ⑤ 放射能の自然と人の健康への影響は微量でもあると考えるのが良いのですが、「影響はない」と言い切って良いのか釈然とできません。本当にそう言い切って終えて良いのでしょうか。

こちらのお尋ねについても、よろしくご説明をお願いいたします。

草々